

《 原著論文 》

## 岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習状況

野口義紘<sup>1,2</sup>, 舘 知也<sup>2</sup>, 伊野陽子<sup>1,3</sup>, 山下修司<sup>1,4</sup>, 玉木啓文<sup>1,3</sup>,  
長内理大<sup>1,3</sup>, 井口和弘<sup>1,3</sup>, 寺町ひとみ<sup>1,2\*</sup>

### Practice Status in Gifu Pharmaceutical University Pharmacy Corresponding to the Revised Model Core Curriculum

Yoshihiro Noguchi<sup>1,2</sup>, Tomoya Tachi<sup>2</sup>, Yoko Ino<sup>1,3</sup>, Shuji Yamashita<sup>1,4</sup>, Hirofumi Tamaki<sup>1,3</sup>,  
Arihiro Osanai<sup>1,3</sup>, Kazuhiro Iguchi<sup>1,3</sup>, Hitomi Teramachi<sup>1,2\*</sup>

The Gifu Pharmaceutical University Pharmacy was established in September 1998 as Japan's first university-affiliated pharmacy and has served as a field for long-term practical training in six-year pharmacy education. This study reports the results of a questionnaire survey conducted with practicum students who received practical training at the Gifu Pharmaceutical University Pharmacy in the 2020-2021 academic year to ascertain the status of practical training in response to the revised model core curriculum. The results confirmed that although some points need to be improved, the practicum students' satisfaction with the practical training at Gifu Pharmaceutical University Pharmacy was extremely high (91.5%; 43/47 trainees), and the practical training was managed correctly. Based on these results, we aim to conduct more fulfilling pharmacy practice and provide feedback to serve as a model for the pharmacies conducting pharmacy practice as a university-affiliated pharmacy.

**Key words:** university-affiliated pharmacy, long-term practical training,  
six-year pharmacy education, practicum students

Received April 1, 2022; Accepted May 26, 2022

---

<sup>1</sup> Yoshihiro Noguchi, Yoko Ino, Shuji Yamashita, Hirofumi Tamaki, Arihiro Osanai, Kazuhiro Iguchi, Hitomi Teramachi 岐阜薬科大学附属薬局

<sup>2</sup> Yoshihiro Noguchi, Tomoya Tachi, Hitomi Teramachi 岐阜薬科大学 病院薬学研究室

<sup>3</sup> Yoko Ino, Hirofumi Tamaki, Arihiro Osanai, Kazuhiro Iguchi 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室

<sup>4</sup> Shuji Yamashita 岐阜薬科大学 地域医療実践薬学研究室

\* 連絡先：岐阜薬科大学附属薬局 寺町ひとみ

〒501-1113 岐阜市大学西1丁目108-3

Tel: 058-293-0220 E-mail: teramachih@gifu-pu.ac.jp

## 1. 緒 言

学生の実習の場として、医学部には学校設置法により附属病院の設置が義務付けられている。一方、薬学部には法律上、附属薬局の設置については義務付けられていない。しかし、医学部が学生の実習の場として附属病院があるように、薬学部にも長期実務実習の場としての附属薬局が望まれている<sup>1)</sup>。岐阜薬科大学附属薬局は、1998年9月に全国で初めて大学附属の薬局として開設され<sup>2)</sup>、薬学教育6年制による早期体験学習における薬局見学、長期実務実習のフィールドとして、また、臨床系教員の研修の場としてもその役割を果たしてきた<sup>3-7)</sup>。

文部科学省は、長期実務実習を、本来、大学が中心となって行う実習であると位置付けている<sup>4)</sup>。岐阜薬科大学では、薬学部の教育の場としての病院や薬局を整備するのが本来の姿と考え、岐阜薬科大学附属薬局は6年制の長期実務実習が開始される前から、薬局に臨床系教員を配置して実習トライアルを実施してきた。岐阜薬科大学附属薬局の実習体制は、大学附属病院の実習体制を参考に各実習期の受け入れ実習生10名で実施された、このトライアルを基に構築され、現在に至っている<sup>4)</sup>。

薬局長期実務実習における5年次薬学生の指導には、モデル・コアカリキュラムに沿った教育が実施されてきたが、学習成果基盤型教育を新たな手法とする改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実習内容の遂行が2019年度より求められるようになっており、今後、より充実した薬学教育・指導体制にするために、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習状況の把握が重要である。

近年、長期実務実習における薬学教育・指導

体制の構築といった大学薬学部または大学附属病院薬剤部の取り組みや調査が報告されている<sup>6-13)</sup>が、薬局実習の模範となるべき大学附属薬局における実務実習に関する調査や取り組みを報告する例は少ない<sup>11, 14, 15)</sup>。

そこで今回は、2020～2021年度の岐阜薬科大学附属薬局で実習を行った実習生を対象として、岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習状況の把握のための調査を実施したので報告する。

## 2. 方 法

### 1. 対象と調査方法

本調査は、2020～2021年度の岐阜薬科大学附属薬局で実習を行った実習生（5年生および科目等履修生あわせて）60人を対象とした。薬局実習および病院実習すべての実習の終了後に自己記入式アンケート調査を行った。本調査で使用したアンケート調査票を図1に示す。

### 2. 調査日

本アンケート調査は、薬局実習および病院実習すべての実習終了後に実施した。

### 3. 解析

Microsoft Excel 2016<sup>®</sup>を用いて、アンケート調査票の質問ごとに単純集計を行った。

### 4. 倫理的配慮

本アンケートの回答は任意によるもので、回答しない場合でも成績に影響する等不利益を被ることは一切ないことをアンケート調査票にて文章で説明した。本研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、岐阜薬科大学の倫理委員会の承認（承認番号：3-27）を得て実施した。

② 岐阜薬科大学附属薬局の実習内容は、病勢改善の内容の理解を深めたかについて、「5、理解を深めた」～「1、理解を深めなかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

5、理解を深めた 4、どちらかといえば理解を深めた 3、どちらともいえない  
2、どちらかといえば理解を深めなかった 1、理解を深めなかった

IV. 4週・8週・11週に行われた指導薬剤師によるルーブリック評価と面談についてお答えください。

① 岐阜薬科大学附属薬局における、指導薬剤師との面談で、指導薬剤師によるルーブリック評価の過程のフィードバックの有無について、「2、あった」か「1、なかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

2、あった 1、なかった

② 岐阜薬科大学附属薬局における、指導薬剤師との面談の満足度について、「5、満足であった」～「1、満足でなかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

5、満足であった 4、どちらかといえば満足であった 3、どちらともいえない  
2、どちらかといえば満足でなかった 1、満足でなかった

③ 岐阜薬科大学附属薬局における、指導薬剤師との面談は、到達度（パフォーマンスレベル）の向上につながったかについて、「5、つながった」～「1、つながらなかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

5、つながった 4、どちらかといえばつながった 3、どちらともいえない  
2、どちらかといえばつながらなかった 1、つながらなかった

IV. 岐阜薬科大学附属薬局の実務実習について「5、あてはまる」～「1、あてはまらない」のいずれかの数字に○をつけてください。

質問項目	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
①11週間の全体の実務スケジュールは適切であった。	5	4	3	2	1
②1日のタイムスケジュールは適切であった。	5	4	3	2	1
③実習生のグループ分けの人数は適切であった。	5	4	3	2	1
④指導薬剤師の人数は適切であった。	5	4	3	2	1
⑤質問のしやすさや実習の雰囲気であった。	5	4	3	2	1
⑥指導薬剤師からの配布資料は適切であった。	5	4	3	2	1
⑦ターミー演習のコマ数は適切であった。	5	4	3	2	1
⑧ターミー演習の内容は満足であった。	5	4	3	2	1
⑨コミュニケーション力を身につけることができた。	5	4	3	2	1
⑩協力材料を身につけることができた。	5	4	3	2	1
⑪症例を理解する力を身につけることができた。	5	4	3	2	1
⑫薬品の分類原則（実習内容）に理解を深めた。	5	4	3	2	1
⑬指導実習日は満足であった。	5	4	3	2	1

IV. 岐阜薬科大学附属薬局における実務実習についてご意見があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。

### 実務実習に関するアンケート

本アンケートは、岐阜薬科大学附属薬局での実務実習における大学・薬局・病勢の進捗、8疾患の体験、ルーブリック評価の現状状況、および岐阜薬科大学附属薬局における特徴ある実習内容について学生がどのように感じているかを把握する目的で実施します。本アンケート用紙は厳重に管理し貴重な資料として扱わせていただきます。また、本アンケート結果は学術学会や学芸誌にて公表されることとなります。なお、本アンケートの回答は任意によるもので、匿名しない場合でも成績に影響する等不利益を被ることは一切ありません。

※実習を満了したのはいくつですか？該当する数字に○をつけてください。

1. 2020年度Ⅰ期 2. 2020年度Ⅱ期 3. 2020年度Ⅲ期  
4. 2021年度Ⅰ期 5. 2021年度Ⅱ期 6. 2021年度Ⅲ期

I. 各質問項目について該当するいずれかの数字に○をつけてください。

質問項目	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
①薬局の環境整備（実習内容）はほぼ十分であった。	5	4	3	2	1
②薬局の実習室に実習内容の学習をした。	5	4	3	2	1
③薬局の実習室に実習内容の学習をした。	5	4	3	2	1
④質問をするも適切な回答に満足した。	5	4	3	2	1

II. 岐阜薬科大学附属薬局での実務実習において、8疾患の体験や体験型実習について「5、体験できた」～「1、体験できなかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

8疾患	体験できた	どちらかといえば体験できた	どちらともいえない	どちらかといえば体験できなかった	体験できなかった
①がん	5	4	3	2	1
②高血圧	5	4	3	2	1
③糖尿病	5	4	3	2	1
④心疾患	5	4	3	2	1
⑤脳血管障害	5	4	3	2	1
⑥精神神経疾患	5	4	3	2	1
⑦アレルギー	5	4	3	2	1
⑧感染症	5	4	3	2	1

体験型実習	体験できた	どちらかといえば体験できた	どちらともいえない	どちらかといえば体験できなかった	体験できなかった
①④-②地域におけるチーム医	5	4	3	2	1
①⑤①-1夜間（日曜）救急・介護への参画	5	4	3	2	1
①⑤②-2地域医師（公費患者、学生実習生、学生実習生）への参画	5	4	3	2	1
①⑤③-3フライタリタス、セルフケアセンターの状況	5	4	3	2	1
①⑤④-4災害時医療と薬剤師	5	4	3	2	1

III. 大学、薬局、病勢による継続的な実習における、岐阜薬科大学附属薬局の実務実習の内容についてお答えください。

① 岐阜薬科大学附属薬局の実習内容は、大学で学んできたことの理解を深めたかについて、「5、理解を深めた」～「1、理解を深めなかった」のいずれかの数字に○をつけてください。

5、理解を深めた 4、どちらかといえば理解を深めた 3、どちらともいえない  
2、どちらかといえば理解を深めなかった 1、理解を深めなかった

図1. アンケート調査票

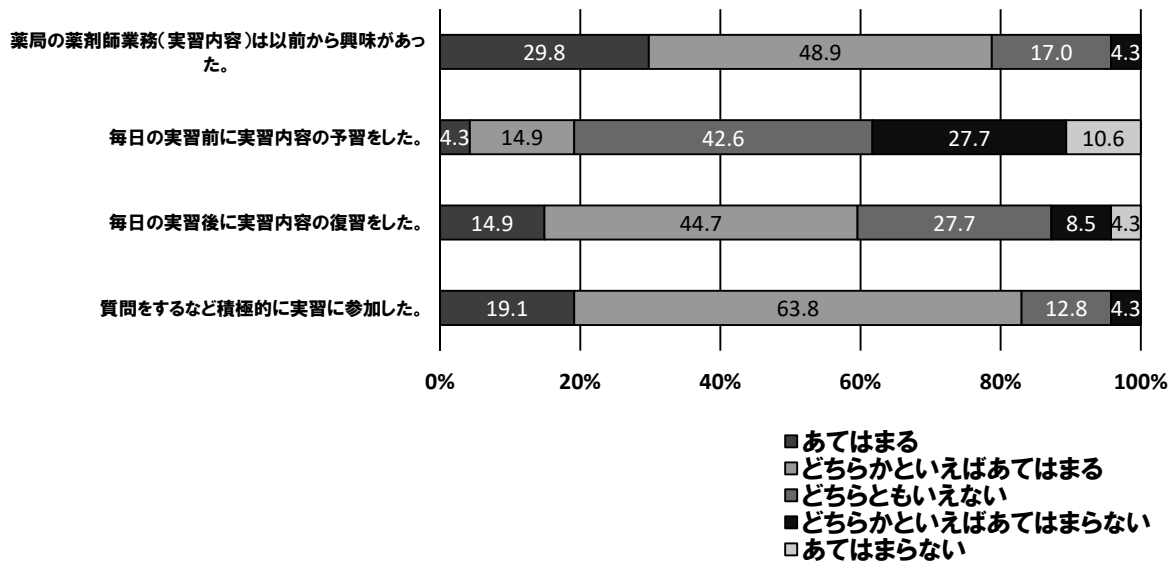


図 2. 実習に関する興味、積極性についてのアンケート結果

### 3. 結果

#### 1. 解析対象者の属性

アンケートの回収率は、96.7% (58名/60名) で、回答を途中で辞退した実習生等を除いた有効回答率は81.0% (47名/58名) であった。

#### 2. アンケート結果

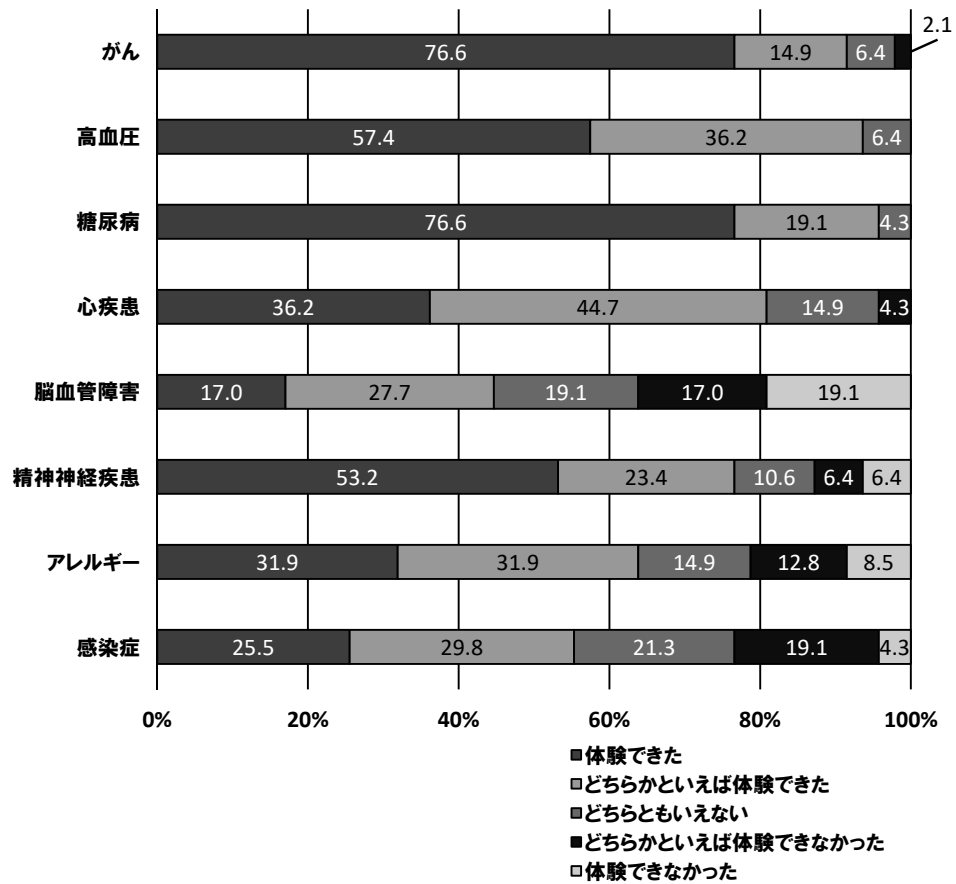
##### 2.1. 実習に関する興味、積極性について

実習に関する興味、積極性についてのアンケート結果を図2に示す。「薬局の薬剤師業務(実習内容)は以前から興味があった。」という設問について、「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割合は、78.7% (37名/47名) であった。「毎日の実習前に実習内容の予習をした。」という設問について、「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割合は、19.1% (9名/47名) であった。一方、「毎日の実習後に実習内容の復習をした。」という設

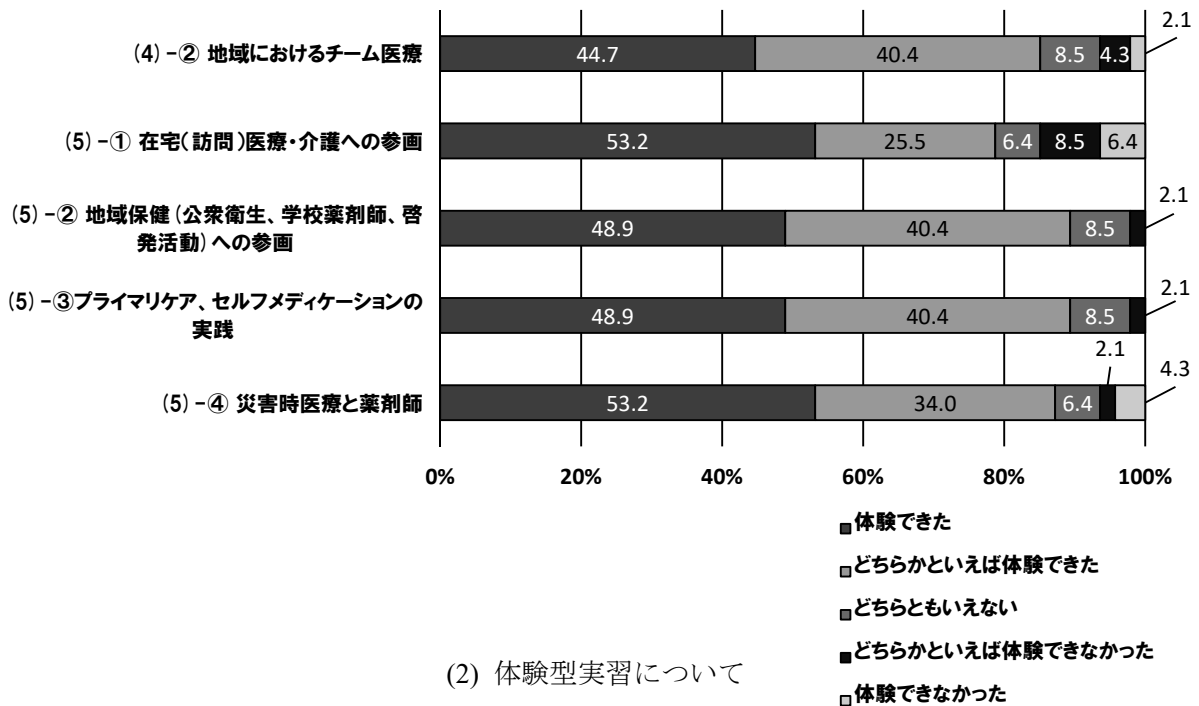
問について、「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割合は、59.6% (28名/47名) であった。「質問をするなど積極的に実習に参加した。」という設問について、「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割合は、83.0% (39名/47名) であった。

##### 2.2. 附属薬局での実務実習における 8 疾患の体験や体験型実習について

附属薬局における実習の 8 疾患の体験や体験型実習(各実習項目)についてのアンケート結果を図3に示す。各実習項目について「体験できた」および「どちらかといえば体験できた」と回答した実習生は、①がん (91.5%; 43名/47名)、②高血圧 (93.6%; 44名/47名)、③糖尿病 (95.7%; 45名/47名)、④心疾患 (80.9%; 38名/47名)、⑤脳血管障害 (44.7%; 21名/47名)、⑥精神神経疾患 (76.6%; 36名/47名)、⑦アレルギー (63.8%; 30名/47名)、⑧感染症 (55.3%; 26名/47名)、⑨(4)-②地域におけるチーム医療



(1) 8 疾患の体験について



(2) 体験型実習について

図 3. 附属薬局での実務実習における 8 疾患の体験や体験型実習について



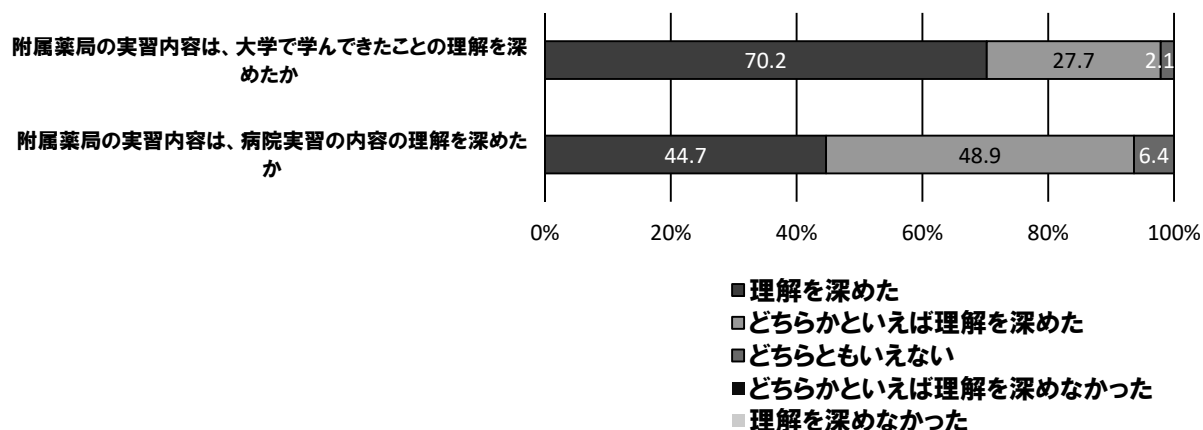


図 4. 附属薬局での実務実習の内容は大学で学んできたこと、病院実習の理解を深めたかについて

(85.1%; 40 名/47 名), ⑩(5)-①在宅 (訪問) 医療・介護への参画 (78.7%; 37 名/47 名), ⑪(5)-②地域保健 (公衆衛生, 学校薬剤師, 啓発活動) への参画 (89.4%; 42 名/47 名), ⑫(5)-③プライマリケア, セルフメディケーションの実践 (89.4%; 42 名/47 名), ⑬(5)-④災害時医療と薬剤師 (87.2%; 41 名/47 名) であった。

### 2.3. 大学, 薬局, 病院による継続的な実習における附属薬局の実習の内容について

大学, 薬局, 病院による継続的な実習における附属薬局の実習の内容についてのアンケート結果を図 4 に示す。「附属薬局の実習内容は、大学で学んできたことの理解を深めたか」について「理解を深めた」および「どちらかといえば理解を深めた」と回答した実習生は、97.9% (46 名/47 名) であった。また、「附属薬局の実習内容は、病院実習の内容の理解を深めたか」について「理解を深めた」および「どちらかといえば理解を深めた」と回答した実習生は、93.6% (44 名/47 名) であった。

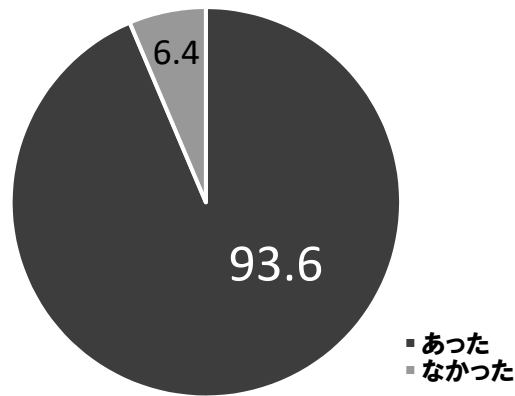
### 2.4. 4 週・8 週・11 週に行われた指導薬剤師によるルーブリック評価と面談について

指導を担当している薬剤師 (指導薬剤師) に

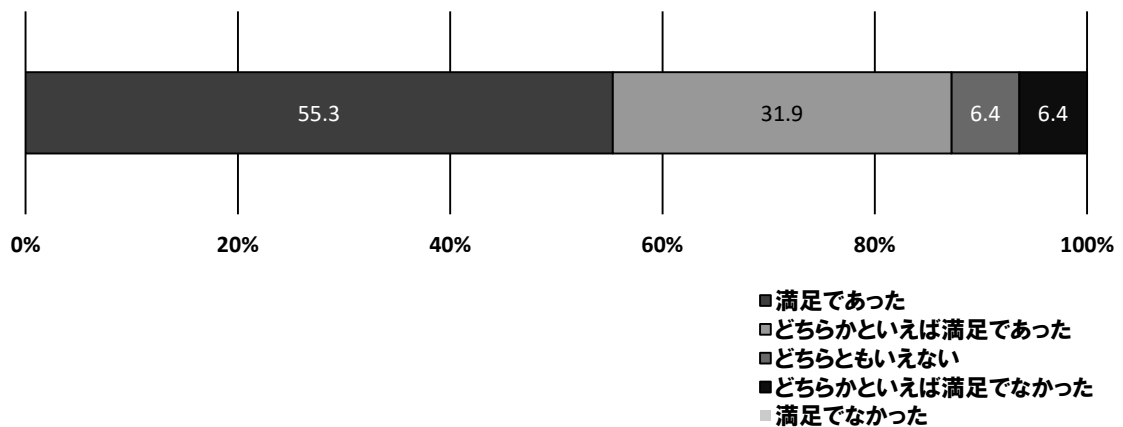
よるルーブリック評価と面談についてのアンケート結果を図 5 に示す。「指導薬剤師との面談で、指導薬剤師によるルーブリック評価の過程のフィードバックの有無」について「あった」と回答した実習生は、93.6% (44 名/47 名) であった。また、「指導薬剤師との面談の満足度」について「満足であった」および「どちらかといえば満足であった」と回答した実習生は、87.2% (41 名/47 名) であり、「指導薬剤師との面談は、到達度 (パフォーマンスレベル) の向上につながったか」については、「つながった」および「どちらかといえばつながった」と回答した実習生は、91.5% (43 名/47 名) であった。

### 2.5. 附属薬局の実務実習について

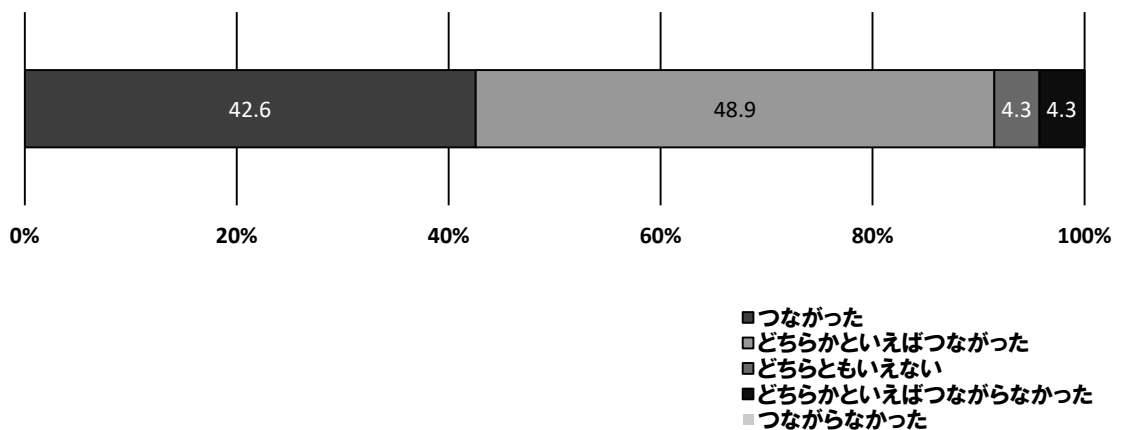
附属薬局の実務実習についての満足度に関するアンケート結果を図 6 に示す。各調査項目について「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生は、①11 週間全体の実習スケジュールは適切であった (87.2%; 41 名/47 名), ②1 日のタイムスケジュールは適切であった (80.9%; 38 名/47 名), ③実習生のグループ分けの人数は適切であった (78.7%; 37 名/47 名), ④指導薬剤師の人数は適切であった (93.6%; 44 名/47 名), ⑤質問



(1) 指導薬剤師によるルーブリック評価の過程のフィードバックの有無について



(2) 指導薬剤師との面談の満足度について



(3) 指導薬剤師との面談は、到達度（パフォーマンスレベル）の向上につながったかについて

図 5. 4 週・8 週・11 週に行われた指導薬剤師によるルーブリック評価と面談について

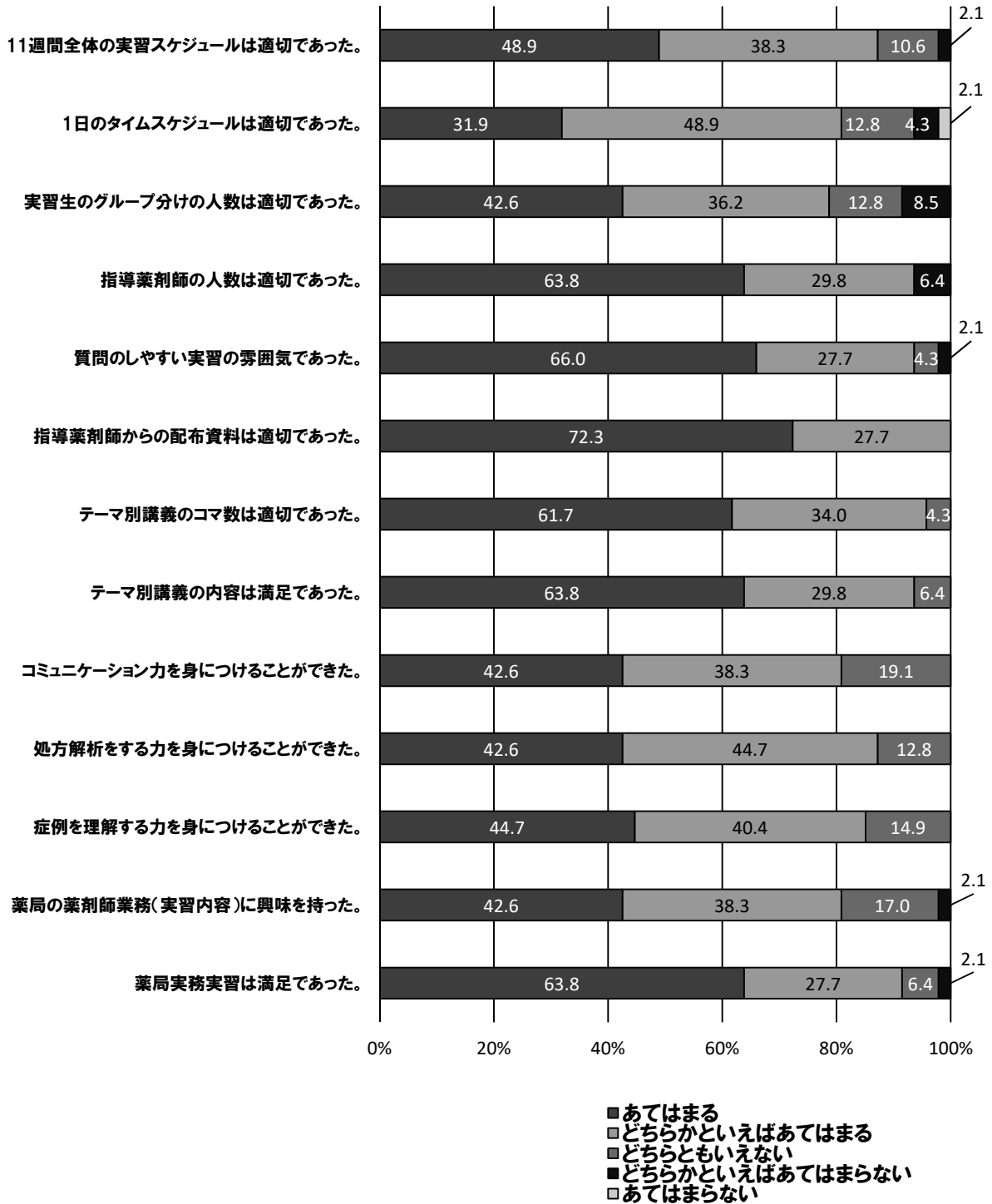


図 6. 実習における満足度について



のしやすい実習の雰囲気であった（93.6%；44名/47名），⑥指導薬剤師からの配布資料は適切であった（100%；47名/47名），⑦テーマ別講義のコマ数は適切であった（95.7%；45名/47名），⑧テーマ別講義の内容は満足であった（93.6%；44名/47名），⑨コミュニケーション力を身につけることができた（80.9%；38名/47名），⑩処方解析をする力を身につけることができた（87.2%；41名/47名），⑪症例を理解する力を身につけることができた（85.1%；40名/47名），⑫薬局の薬剤師業務（実習内容）に興味を持った（80.9%；38名/47名），⑬薬局実務実習は満足であった（91.5%；43名/47名）であった。

#### 4. 考 察

本調査は，岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習状況を把握することを目的として，岐阜薬科大学附属薬局で実習を受けた実習生に対してアンケート調査を行った。

実習生の多くは，「薬局の薬剤師業務（実習内容）は以前からの興味があった」という設問に対し，「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答している。また，「質問をするなど積極的に実習に参加した」という設問について，「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した。積極的に実習に参加した実習生の割合は，8割を超えていた。実習生の薬局薬剤師業務（実習内容）に対する興味の高さが，積極的な実習参加につながった可能性がある。

しかし，実習の予習・復習については，「毎日の実習前に実習内容の予習をした。」という設問について，「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割

合は，19.1%，さらに「毎日の実習後に実習内容の復習をした。」という設問について，「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」と回答した実習生の割合は，59.6%であり，実習時間内の積極性に比べると，実習時間外における積極的な自己学習は少ない傾向がみられた。しかし，岐阜薬科大学附属薬局の1日の実習のタイムスケジュールでは，実習生には16時から17時の1時間に「1日のまとめ」の時間を用意しており，実習時間内に実習当日の復習することができる。実習生は，その時間を活用して，その日の実習で自身が理解できなかったことや明日の実習で取り組むべきことを把握しており，必要に応じて，その時間を復習だけではなく，予習にも充てている可能性がある。

改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習では，体験型実習が求められている。改訂モデル・コアカリキュラムで設定された代表的な8疾患（がん，高血圧，糖尿病，心疾患，脳血管障害，精神神経疾患，アレルギー，感染症）に関する実習のうち，7割以上の実習生から「体験できた」および「どちらかといえば体験できた」と回答された疾患は，糖尿病（95.7%），高血圧（93.6%），がん（91.5%），心疾患（80.9%），精神神経疾患（76.6%）の5疾患であった。岐阜薬科大学附属薬局は，岐阜大学医学部附属病院前に立地しており，来局する患者が罹患している疾患は多岐にわたるものの，アレルギー，感染症，脳血管障害に関する体験型実習については，体験できていないと感じている実習生も多く，実習期間中に定期的に体験できているかについて，特に確認が必要であることが明らかになった。

また，体験型実習として，「(4)-②地域におけるチーム医療」，「(5)-①在宅（訪問）医療・介護への参画」，「(5)-②地域保健（公衆衛生，学

校薬剤師、啓発活動)への参画」,「(5)-③プライマリケア,セルフメディケーションの実践」,「(5)-④災害医療と薬剤師」はいずれも75%以上の実習生が,「体験できた」および「どちらかといえば体験できた」と回答しており,多くの実習生において適切な体験型実習が実施できたと思われる。

大学,薬局,病院による継続的な実習における附属薬局の実習の内容についてのアンケートでは,「附属薬局の実習内容は,大学で学んできたことの理解を深めたか」,「附属薬局の実習内容は,病院実習の内容の理解を深めたか」のいずれの設問についても9割以上の実習生が,「理解を深めた」および「どちらかといえば理解を深めた」と回答している。さらに,指導薬剤師によるルーブリック評価と面談についても多くの実習生が,指導薬剤師との面談に満足しており,指導薬剤師との面談が到達度(パフォーマンスレベル)の向上につながったと回答している。岐阜薬科大学附属薬局に所属する7名の薬剤師は,すべて臨床系教員であり,薬局薬剤師の勤務経験者だけでなく,病院薬剤師としての勤務経験者もいる。そのため,岐阜薬科大学附属薬局における薬局実習は,大学,薬局,病院による継続的な実習実施に適切に寄与し,到達度(パフォーマンスレベル)の向上につながる面談の実施ができたと考える。しかし,本来,指導薬剤師によるルーブリック評価の過程のフィードバックは必須であるが,本調査では,有効回答数47名中3名(6.4%)が,「指導薬剤師との面談で,指導薬剤師によるルーブリック評価の過程のフィードバックの有無」について「なかった」と回答している。指導薬剤師がフィードバックしているつもりでも,実習生には,フィードバックされているという実感がなかったケースかもしれない。今後,より徹底したフィードバック

が望まれる。

岐阜薬科大学附属薬局は,岐阜県薬剤師会の依頼により,2016年度薬局実務実習第2期～2018年度第3期の実習生を対象に,改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習トライアルを実施しており,実習トライアルの情報は,大学教員や病院の指導薬剤師と共有している。これらのトライアルに参加した薬剤師の意見や評価表による実習生の実習到達度を参考に11週間全体の実習スケジュールおよび1日のタイムスケジュールは作成された<sup>14,15)</sup>。各スケジュール例を図7に示す。アンケート結果から,11週間全体の実習スケジュールおよび1日のタイムスケジュールは,8割以上の実習生が,適切であったと回答していることから,実習トライアルを踏まえてスケジュールを作成した結果,多くの学生が適切であったと回答したと考える。

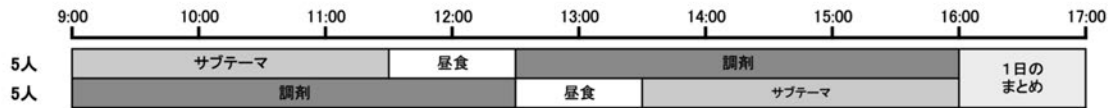
岐阜薬科大学附属薬局に所属する薬剤師は7名(うち,薬局長1名,管理薬剤師1名),各実習期で受け入れる実習生は,岐阜薬科大学の学生10名である。岐阜薬科大学附属薬局の実習体制は,6年制の長期実務実習が開始される前から,大学附属病院の実習体制を参考にした実習トライアルを基に構築されているため,薬学教育協議会が示す「6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方;実習期ごとの受入学生数は,1薬局2名までとする」に比して,岐阜薬科大学附属薬局は,薬局としての実習生の受入学生数は多い。しかし,岐阜薬科大学附属薬局の指導薬剤師は,各実習期2名の実習生を担当しており,9割以上の実習生が,「指導薬剤師の人数は適切であった」,「質問のしやすい実習の雰囲気であった」と回答している。また,岐阜薬科大学附属薬局では,1日のタイムスケジュールに示したとおり,実習生のグループを2つに分けて実習を行っている。

薬学実務実習に関するガイドライン	改訂コアカリ小項目	薬学実務実習の手引き2018	分類STEP 具体的目標	実習の例示				
				月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
(2) 処方せんに基づく調剤	【②処方せんと疑義照会】 【③処方せんに基づく医薬品の調製】 【④患者・薬局対応、服薬指導、患者教育】 【⑤医薬品の供給と管理】 【⑥安全管理】	A.保険調剤ができる (医薬品の調製) B.保険調剤ができる (処方監査・医療安全) C.保険調剤ができる (服薬指導) ※概略評価	A-2-1	STEP 1より複雑な処方箋(一包化、粉砕、散剤、軟膏剤の計量混合を含む)を用いて、薬師を管理しながら実際の調剤を行う。なるべく基本的な処方箋を選択する。				
			A-2-2	供給・管理・保管の例 ・直ちに服用しなければならない医薬品が処方され、実習施設において即時調剤できない場合の対応を体験する(他施設との連携を含む)。 ・新薬、専売、麻薬、凶器特異薬および安眠剤原料や特定生物由来製品などの特別な管理が必要な医薬品を正しく保管し記録をつける。				
			B-2-1	【処方監査】 指導薬剤師が適宜な処方箋を選び、実習生が医薬品(品目、剤形)の選択、用法・用量の妥当性を判断する。また、その取扱い理由を確かめる。監査の進め方が確実に身につくにつれて徐々に困難を増やすことが望ましい。また、薬局内でのカンパレンスでその機会を持つことも良い。実務では、一包化や計量混合・自家製剤を含む調剤でその可否を含めた監査を行う(領域「A医薬品の調製」STEP2参照)。 【疑義照会】 実習生は、実習中に疑義が起こった処方について、考えた内容と根拠を指導薬剤師に説明したうえで疑義照会を行う(調剤録等への記録を含む)。 ※指導薬剤師は、疑義照会に先立ち、実習生が照会することについて対象医師の承認を得ることが望ましい。また、照会内容は実習生が考えた代替提案の内容を確認し、最終的に照会結果を確認する。				
			B-2-2	【調剤過誤防止策の策定】 ①過去の事例に基づいて、「なぜ起きたか?」(原因)を分析し、「どうしたら防ぐことができるか?」について防止策を検討し、指導薬剤師に提案する。 ②実習生の提案と過去の事例の対策案を比較、検討する。				
			C-2-1	基本的な処方箋で服薬指導を体験する。指導薬剤師は、その対象としてコミュニケーションがとりやすい患者を選択する。実習生は服薬指導で収集した情報の内容を分析し、指導薬剤師と討議する。				
			C-2-2	具体的な目標と同様に、基本的な処方箋で、比較的コミュニケーションがとりやすいと考えられる患者で服薬指導を体験する(STEP 1の具体的な目標2で加工・作成した資料を活用することが望ましい)。				
			C-2-3	基本的な処方箋に対して、本STEPの具体的な目標2で服薬指導した内容を薬歴に記載し、その内容や疑問点などを指導薬剤師と討議する。 ※実習生の成長に合わせて適宜な患者を選択し、繰り返して実施する。				
C-2-4	代表的な8疾患を含む基本的な処方箋で、疾病に起因した服薬指導を行う。また、それに含まれるハリスク薬も意識しながら服薬指導を行う。 ※実習生の成長に合わせて適宜な患者を選択し、繰り返して実施する。							
(3) 薬物療法の実践	【①患者情報の把握】 【②医薬品情報の収集と活用】(E3(1)参照) 【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】 【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】	D.処方設計と薬物療法 (薬物療法の実践) ※概略評価	D-1-1	単純な処方箋を選び、収集した情報(患者の様子や採血の結果、服薬状況の確認、血液検査の結果など)を基に、指導薬剤師とともに薬物療法の妥当性を検討する。 ※実習生自身が服薬指導を行った患者に加え、実習施設他の症例についても検討し、経験を積みよにする。				
(4) チーム医療への参画	【①医療機関におけるチーム医療】 【②地域におけるチーム医療】	E.在宅医療	D-1-2	単純な処方箋で医師の処方意図を解釈し、患者との会話などから得た情報と関連づけ指導薬剤師のアドバイスのもと患者に説明する。 ※実習生の成長に合わせて徐々に難易度を上げていく。				
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画	【①在宅(訪問)医療・介護への参画】 【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】 【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 【④災害時医療と薬剤師】	F.セルフメディケーション G.地域で活躍する薬剤師 ※実務実習記録による評価		地域医療福祉				

(1) 1週間全体の实習スケジュール (本例は4週目のスケジュール)

実習タイムスケジュール

①投薬実習開始前のタイムスケジュール



②投薬実習開始後のタイムスケジュール



※投薬実習の学生は、担当患者薬局まで、薬歴の確認など、事前準備を行う。

※投薬実習の学生は、調剤の学生が担当する患者が薬局に投薬実習を行う場合は、混雑状況に応じて調剤のフォローにまわる。

(2) 1日のタイムスケジュール

図7. 実習スケジュール例

実習生の多くは、実習生のグループ分けの人数は適切であったと回答している。

一方、自由記述において、1日に応需している処方箋枚数のばらつきによる調剤および投薬実習の実施件数のばらつきについて不満を感じる実習生もいた。この問題点は、処方箋を応需する立場である薬局では改善しにくい、来局者予定人数も十分に考慮したスケジュール構築も必要であることが示唆された。

岐阜薬科大学附属薬局では、1日のタイムスケジュールに実習の理解を深めるための「テーマ別講義(サブテーマ)」の時間を設定し、服薬指導のポイントなどを講義している。本アンケートでは、「指導薬剤師からの配布資料は適切であった」(100%)、「テーマ別講義のコマ数は適切であった」(95.7%)、「テーマ別講義の内容は満足であった」(93.6%)という回答があり、「テーマ別講義(サブテーマ)」は高い満足度を与えていることが明らかになった。

岐阜薬科大学附属薬局では、実習トライアル時から、コミュニケーション力の育成、処方解析をする力の育成、症例を理解する力の育成に重点を当ててきた<sup>14,15)</sup>。これらについても、8割以上の実習生が、身につけることができたと回答しており、実習トライアルのフィードバックが適切に行われた実習の実施ができたと考える。

岐阜薬科大学附属薬局における薬局実務実習を経て、薬局の薬剤師業務(実習内容)に興味を持った実習生は増加しており、9割以上の実習生が、薬局実務実習は満足であったと回答しており、充実した11週間の実習が実施できていると考える。

本調査により、岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実習状況を把握できた。これらの調査結果からより充実した薬局実務実習を実施すると

もに、薬局実務実習の模範となるべき大学附属薬局として薬局実習実施薬局へのフィードバックをしていきたいと考える。

## 利益相反

開示すべき利益相反はない。

## 参考文献

- 1) 寺町ひとみ, 松下 良, 大学附属薬局の使命と将来への展望, YAKUGAKU ZASSHI, 136, 715 (2016).
- 2) 岐阜薬科大学医療人 GP 運営委員会, “医療人 GP-附属薬局を活用した臨場感溢れる実践教育-平成 18 年度活動報告書”. 岐阜, 2007, pp.29-74.
- 3) 寺町ひとみ, 酒井英二, 土屋照雄, 岐阜薬科大学附属薬局を活用した早期体験学習(薬局見学)に対する5年間のアンケート調査とその解析, 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌, 8, 3-11 (2011).
- 4) 寺町ひとみ, 岐阜薬科大学附属薬局における薬学教育の実践及び地域薬局としての役割, YAKUGAKU ZASSHI, 136, 733-736 (2016).
- 5) 舘 知也, 野口義紘, 寺町ひとみ, 岐阜薬科大学における臨床系教員の臨床能力維持と臨床研究, YAKUGAKU ZASSHI, 137, 3-8 (2017).
- 6) 舘 知也, 野口義紘, 水井貴詞, 山下修司, 堺 千紘, 横山 聡, 伊野陽子, 井口和弘, 福田聖啓, 安田昌宏, 後藤千寿, 寺町ひとみ, 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける実務実習に向けた大学・施設間の情報共有の実施と薬剤師の意識調査,



- 医療薬学, 44, 251-259 (2018).
- 7) 鈴木小夜, 中村智徳. 病院実習で行うパフォーマンス評価, 薬学教育, 2 (2018).
  - 8) 春日井公美, 毛利順一, 田中 怜, 中山萌美, 飛田夕紀, 川野千尋, 小林昌宏, 平山武司, 黒山政一, 厚田幸一郎, 北里大学病院・北里大学東病院の改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム実施前病院実務実習における代表的8疾患の実施状況調査, 薬学教育, 3, (2019).
  - 9) 安高勇氣, 緒方憲太郎, 神村英利, 実践的な病棟実習による薬学部 5 年生に生じる意識変化, 薬学教育, 3 (2019).
  - 10) 國津侑貴, 上田智弘, 平 大樹, 森田真也, 寺田智祐, 病院薬剤師が主導した薬学生の実務実習におけるルーブリック評価トライアル, 薬学教育, 3 (2019).
  - 11) 清宮啓介, 津田壮一郎, 池淵由香, 鈴木小夜, 地引 綾, 岩田紘樹, 横山雄太, 河添仁, 小林典子, 藤本和子, 山浦克典, 中村智徳, 村松 博, 青森 達, 望月眞弓, 代表的 8 疾患と薬局実習が病院実習の到達度に与える影響, 医療薬学, 46, 715-721 (2020).
  - 12) 小佐野博史, 伊藤憲一郎, 大学・大阪府薬・大阪府病薬共同企画 大学が主体となった薬剤師の質の向上を目指した実務実習の在り方を考える, 薬学教育, 5 (2021).
  - 13) 久保賢晃, 舘 知也, 高岡みらい, 青山京介, 林 剛, 野口義紘, 寺町ひとみ, 社会的スキルおよび薬剤師コミュニケーションスキルに対する実務実習の効果～学生への自己評価アンケート調査～, 医療薬学, 47, 279-292 (2021).
  - 14) 寺町ひとみ, 野口義紘, 舘 知也, 伊野陽子, 山下修司, 塚 千紘, 玉木啓文, 井口和弘, 岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実習トライアルの実施と実習スケジュールの標準モデルの作成, 第 51 回日本薬剤師会学術大会要旨集, (2018).
  - 15) 寺町ひとみ, 野口義紘, 舘 知也, 伊野陽子, 山下修司, 玉木啓文, 長内理大, 井口和弘, 岐阜薬科大学附属薬局における改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実習スケジュールの標準モデルの作成とその実施, 第 52 回日本薬剤師会学術大会要旨集, (2019).